朝のこない夜はない

ただ
正しい
しんこう
信仰をして

しあわ
幸せになりましょう

鈴木正修

むらかみせんせい かんにん 村上先生の堪忍

むらかみせんせい にやうしん 村上先生の入信のきっかけ

みな 皆さんよくご存知のよう^{ぞんじ}に、村上先生はとて
もご長命^{ちやうめい}でした。70代^{だいい}の後半^{こうはん}に杉山先生^{すぎやませんせい}の跡^{あと}を
継^つがれて、第二^{だいい}代会長^{かいちやう}になりました。村上先^{むらかみせん}
生^{せい}が入信^{にやうしん}されたのは、杉山先生^{すぎやませんせい}が村上先生^{むらかみせんせい}の所^{ところ}
に訪^{たず}ねて行^いかれたのがきっかけ^{かけ}でした。杉山先^{すぎやません}
生^{せい}は妙法^{みよほう}と医薬^{いやく}の両輪^{りやうりん}で人^{ひと}を助^{たす}けていきたいと
思^{おも}つてみました。そこで、医師^{いし}の協力^{きやうりき}者を求^{もと}
めて方々^{ほうほう}訪^{たず}ねられました^{たず}が、なかなか協力^{きやうりき}して
下^{くだ}さるお医者^{いしや}さんはおられ^たりません^せんでした。
そんな中^{なか}、ある人^{ひと}に紹介^{しょうかい}されて知多郡岡田^{ちたぐんおかだ}と
いう所^{ところ}で医院^{いゐん}を開業^{かいぎやう}しておられた村上先生^{むらかみせんせい}を訪^{たず}

ねられたのです。その時^{とき}、村上先生^{むらかみせんせい}は蓄^{たくわ}えてあ
つた、今^{いま}でいうと数億^{すうおくえん}円^{えん}くらいの財産^{ざいさん}を無^なくし
てしまい、奥^{おく}さんにも逃^にげられ、自暴^{じぼう}自棄^{じき}にな
つて、もう死^しんでしまおうと思^{おも}つておられたと
いうことです。

すぎやませんせい であ
杉山先生^{すぎやませんせい}に出会^{であ}われ、村上先生^{むらかみせんせい}は『悪因^{あくいん}悪果^{あくくわ}』
のお話^{はなし}を聞^きかれました。

「今^{いま}、あなたが苦し^{くる}んでいるのは、あなた^{あなた}のし
てきた事^{こと}の結果^{けつが}です。死^しんでもその因縁^{いんねん}から逃^{のが}
れることは出来^{でき}ません。いや、このまま死^しねば
かえつて、もつと怖^{こわ}いことになりますよ。自殺^{じさつ}
は変死^{へんし}です。およそ変死^{へんし}をとげる者^{もの}は『必ず^{かならず}地^じ

獄を免れず』と教えにあります」

そう言われ、「では、どうしたらいいのですか」と村上先生が尋ねると、「妙法を信じ、慈悲・至誠・堪忍の実行をして、徳を積んでゆけば、罪もほどけて、幸せになれますよ。あなたは今、死んで地獄に墮ちると、妙法を信じて幸せになると、どちらがいいですか」と逆に問われ「幸せになる方がいい」と自殺を思い留まられて、杉山先生のお弟子とられたわけです。

村上先生の欠点

ここで、村上先生が反省された事があります。村上先生は後年、こんな事を言われました。

「私には欠点が三つある。一つは短気な事。これが一番良くない。後の二つは取り越し苦労と、堅苦しい事」

山首上人さまが村上先生の御法話集の推薦文に書かれてみえますが、村上先生はかなり短気だったようです。だからこそ堪忍の功德のありがたさをより強く感じられたのでしよう。気の長い人には堪忍のありがたさは解りにくいかも知れません。

聞いた話ですが、タレントの所ジョージさんは怒るといふ事がまずないそうです。テレビで明石家さんまさんが話していたのですが、さんまさんが大竹しのぶさんと結婚していた時、所さん夫婦と四人で旅行に行ったそうです。その

時、所さんが手配したホテルが気に入らなかつた奥さんが、ホテルに着くなりものすごい勢いで所さんに怒ったというのです。驚いたさんまさんが所さんの様子を見てみると、所さんはずっと下を向いているだけで何も言わなかつたそうです。そこで、奥さんが最後に「あんたなんか居ても居なくても同じだわ」と捨て台詞を言いました。これには流石の所さんも怒るだろうと思っていたのですが、所さんは少し間を置いて「居ても居なくても同じなら、居ようかな」と言ったといひます。これには奥さんも気が抜けてしまい、その後四人で仲良く旅を楽しんだというのですが、万事がそういう感じらしいのです。

所さんのような方にとつては、堪忍は必要のない事かもしれません。

村上先生にとつては、堪忍は非常に効果がありました。我々にとつても、堪忍はとても意味のある教えだと思ひます。

山首上人さまの特長

取り越し苦労というのは誰でもするものです。先の事を心配してしまうのです。「案ずるより産むが易し」と言ひますが、なかなかそうは思ひませぬ。

山首上人さまはあまり心配をされない方でした。「先の事はどうにかなる」というタイプでした。

山首上人さまに比べたら私は取り越し苦労をする方です。大学受験で浪人をした時、成績が伸び悩み、年末になって不安になってきた時がありました。そこで山首上人さまに相談すると、山首上人さまは「大丈夫、心配はない。まあ別に受からなくても心配ない」と言われました。大学の先生になろうと思ったら一流の学歴が必要ですが、僧侶にそういう学歴は必要ないだろうという山首上人さま流の励ましなのですが、それですっかり気持ちが楽になり、合格する事ができました。

堅苦しさ

堅苦しさは、良い意味では物事に対して几帳

面という事だと思えますが、山首上人さまには、どちらもありませんでした。型にはまらないといったらいいかも知れません。この姿勢はある意味強いと思います。

劍豪・宮本武蔵の有名な『五輪書』の中に「居着くは死ぬる手なり」という言葉があります。居着くとは、固まるとか、もうこれでいいと思うことです。剣の道では自分の型を決め、これで無敵だと思った瞬間にもう駄目だと言います。型ができた瞬間にその型が弱点になります。宮本武蔵は生涯、型が無かったといえます。臨機応変だったのです。だからこそ、どんな所で戦っても無敵だったのです。山首上人さまにもそういう所がありました。

堪忍の徳と力

村上先生は、短気という自分の弱点を杉山先生の教えによって克服することが出来たとおっしゃって見えます。一番の堪忍だめしだったのは、杉山先生が御遷化された時の事でした。

杉山先生御遷化の直後、杉山家の代表という人がやってきて「杉山先生には家族がいなかったので、当時の救済会の全資産を杉山家で相続する」と言うのです。村上先生以下信者さんも全員出て行ってくれ、と言ったわけです。その時村上先生は、「これは諸天のおためしだ。諸天が私をためしてみえるのだ。これ乗り越えて私は一つ上の悟りに行かなければ」と思われしました。

その時、信者さんの中で法律に詳しい方が「裁判すれば多分勝てますよ。これは救済会の資産であり、杉山家の物ではありませんから」と言われたのですが、村上先生は「法律に頼るのは良くない。裁判はケンカをするのと同じだ。堪忍破りだ」という事で断られたそうです。そして一年くらいかけて代表の人と交渉され、理事として会の中に入って頂く事を条件に話し合いがつき、相手側が言い分を放棄する事になりました。村上先生の堪忍が相手を教化したと言えるでしょう。

それから数年して、会員数は杉山先生の御遷化された昭和七年から比べて十倍くらいになったといえます。それくらい堪忍の徳は素晴らしい

と、村上先生は身をもつてお示しになられたのです。

迷信を絶つ

村上先生の御法話集に『迷信を絶つ』というお話があります。村上先生は「堪忍をして徳を積み、絶対に思う通りになる」という強い信仰をもつてみえました。有名な話ですが、ある方が村上先生の所にみえて「信仰をしてくれた上で上手いかない。ちよつと信仰を休ませてもらいたい」と言われた時、村上先生は「そんなうそを言つてはいけない。あなたは真の信仰をしてこなかったから上手いかないんだ。それなのに信仰してきたなんて事を言つたら謗法罪

になりますよ」と言われたそうです。それくらい妙法を実行すれば必ず良くなるという確信をお持ちでした。ですから、他力本願的な信仰を迷信と言われたのです。

例えば仏像を拜むだけとか、お経を読むだけとかでは駄目なのです。仏像を拜むのは「仏様のような人格になろう」という努力をする誓いを立てる事なのです。お経を読むという事は「その中に書いてある事を日常に実行します」と誓う事なのです。ただ読むだけでなく、よく中身を知つて、それを日常に生かさなければ意味がありません。

世の中には、名前とか方位・方角にこだわる人がいます。それも村上先生は否定してみえま

す。名前だけ変えても何の意味もないし、方位・方角にこだわっても何の意味もないのです。

しかし人間は、そういう験担ぎをしたがるものです。

落語に『寿限無』という話があります。生まれた子どもにいい名前をつけようと思うのですが選ぶ事ができず、いいと言われた名前を全部繋げてしまったというお話です。

山首上人さまのお知り合いの方の娘さんの結婚式に、山首上人さまの代わりに私が出させて頂いた時にこんな事がありました。最後に、娘さんの名前の由来をお父さんが、

「絶対に男の子だと思って、男の名前ばかり考えていたけれど女の子が生まれたので困ってし

まい、考えこんでしまった。その時、御巢鷹山で日本航空の飛行機が墜落し、520名が亡くなるという大事故がおきた。生存者の中に何名か女性がいたという話を聞いて、『飛行機が落ちてても生き延びるような運の強い名前がいい』と、生き残った方の名前を調べ、自分の苗字に一番合う画数の名前を選び、名付けた」と話して下さいました。

もう一つ名前で面白い話があります。一宮支院の伊藤先生がお生まれになった時、村上先生が名前を付けられました。信者さんで姓名判断に凝ってみえる方が、その師匠のところにも名前を持って行ったところ「これは短命な名前だ」と言ったそうです。その方はそれを聞いて

皆みなさんに「どうもこの名な前は短命たんめいらしい。いかんよ」と言いい、慈学じがくしやう上人にんにお願ねがいして村上先生むらかみせんせいに名前なまえを変かえてもらおうと相談そうだんしました。すると慈学じがくしやう上人にんが「それはいかん。そんな短命たんめいな名前なまえはいかん。絶对ぜつたい死しなない名前なまえにしてもらおう」と言いわれたそうです。皆みなさん「慈学じがくしやう上人にんはとんちがきいているな」と笑わらいましたが、結局けつぎよく「そんな馬鹿ばかな事ことを言いってはいけな

「そんな馬鹿ばかな事ことを言いってはいけな」と
気付きづき「村上先生むらかみせんせいに頂いたいた尊たうとい名前なまえを喜よろこばな
れば」と納得なつとくされたそうです。

村上先生むらかみせんせいは「そういつた種類しゆるいのものはみな迷めい信しんだ」と言いわれ、結論けつろんとして「徳とくさえ積つめばいい。徳とくさえ積つめばいい。徳とくさえ積つめば世よの中なかは思おもい通とおりになる。思おもい通とおりにならないと言いっている人は、徳とくを積つまずに罪障ざいじやうばかり積つんでいるのだ。もし、徳とくを積つんで一生懸命いつしやうけんめいやっているのに上う手まくいかなかつたら、その時ときは『何なにか自じ分ぶんの考かんがえ方かたに誤あやまりがある。罪障ざいじやうがまだ取とれていないんだ』とそう思おもいなさい」とおっしゃられています。